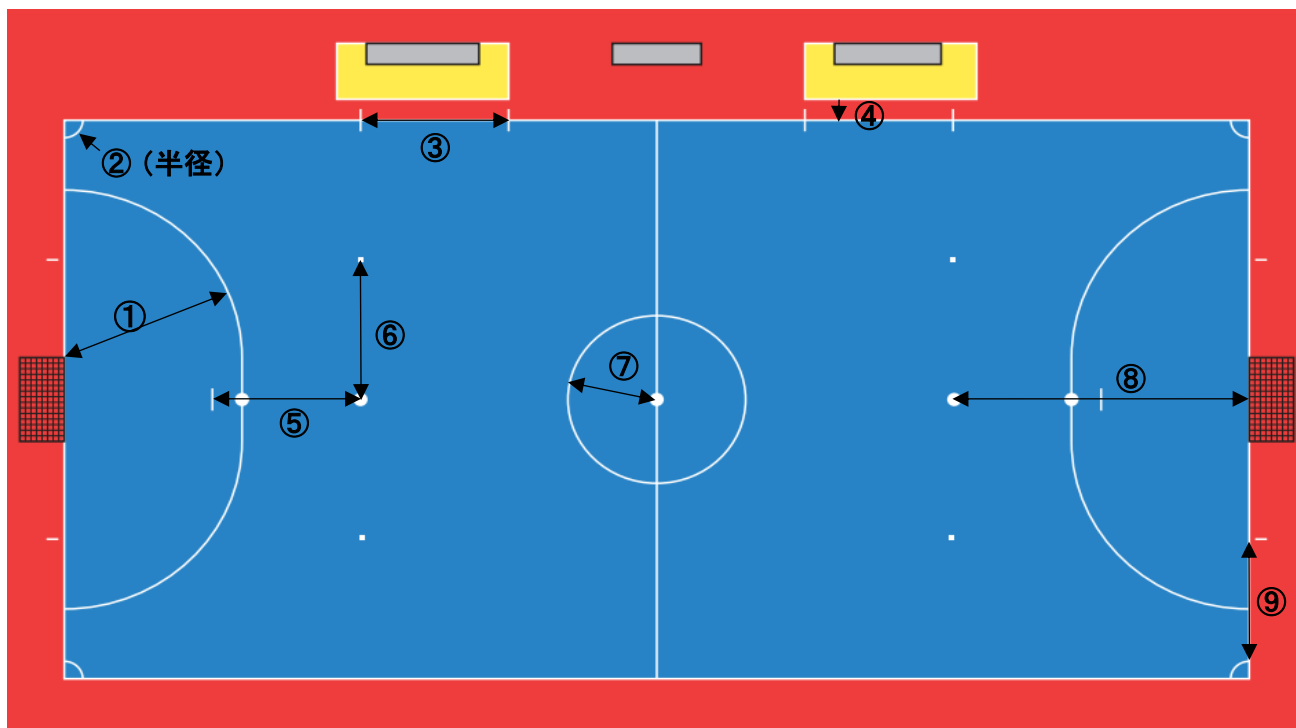


問1 以下のピッチについて、フットサル競技規則第1条に規定される距離（長さ）等を下表に答えなさい。

(2点×10、第1条 P12～15)



①	6 m	⑥	5 m
②(コーナークの半径)	0.25 m	⑦	3 m
③	5 m	⑧	10 m
④	0.75 m	⑨	5 m
⑤	5 m	すべてのラインの幅	8 cm

問2 以下の文章内にある（ ）に適切な言葉を記入しなさい。(2点×5、第12条 P56)

・「不用意」とは、競技者が相手に挑むとき（ 注意や配慮 ）が欠けていると判断される、または、慎重さを欠いてプレーを行うことである。懲戒処置は、必要ない。

・「無謀」とは、相手競技者が（ 危険にさらされている ）ことを無視して、または、結果的に危険となるプレーを行うことであり、このようにプレーする競技者は、（ 警告 ）されなければならない。

・「過剰な力を用いる」とは、競技者が（ 必要以上の力を ）を用いて相手競技者の安全を危険にさらすことであり、このようにプレーする競技者には（ 退場 ）が命じられなければならない。

問3 フットサル審判員の重点項目について（ ）内に適当な言葉を記入しなさい。(2点×10、付録P152)

●「判定」

- ・激しくてもフェアなプレーとラフなプレーを見極める。
- ・(競技者の意図)を読み、小さくても悪質なプレーを見逃さない。
- ・(手の不正な使用)を許さない。
- ・素早的確な判定を行う。
- ・累積ファウル5つ目以降であってもそれまでと同じ判定基準を保つ。

●「(アドバンテージ)」

- ・(アドバンテージ)を的確かつ積極的に適用する。特に、累積ファウルの5つ目以降、DFKSAFとするのか(アドバンテージ)を適用するのか確実に見極める。

●「態度、姿勢」

- ・精神的な強さ、冷静さ、(毅然さ)を保つように努める。
- ・明確な(シグナル)、必要なときに明快なジェスチャー等を効果的に使う。
- ・競技者の行為や反応など、いろいろなことに気づき、適切な対応をする。

●「ポジション、動き」

- ・正しい判定をするために、(適切なポジショニング)に努める。
- ・主審と第2審判が同期して、(対角線審判法)によるより良いポジション取りに努める。

●「協力」

- ・主審、第2審判、第3審判およびタイムキーパー各自が責任と任務を確実に果たし、より良い(チームワーク)でゲームをコントロールする。

問4 DOGS0(決定的な得点機会の阻止)の考慮点について、()内に適当な言葉を記入しなさい。(2点×5)

- ・(反則とゴール)との距離
- ・全体的な(プレー)の方向
- ・ボールを(キープ)できる、または(コントロール)できる可能性
- ・ゴールキーパーおよび守備側フィールドプレーヤーの(位置)と(数)
- ・ゴールが「(守られている)」かどうか

問5 以下の状況に対し、適当な対応を選択肢の中から選びなさい。

●ゴールクリアランスが行われるとき、相手競技者がペナルティエリア内に入りボールがインプレーになる前にボールに挑んだ。(第16条、P82)

①そのまま続行する。

②ゴールクリアランスを再び行う。

③ペナルティエリア内に侵入した相手競技者を警告し、間接フリーキックで再開する。 回答 ②

●ゴールキーパーがインプレー中に相手競技者と激しく接触し負傷、ピッチ内に倒れている。(負傷の程度は、立ち上がることができず、治療が必要な様子。接触の際のファウルはなし。)(第5条P38)

①激しい接触であったが、アウトオブプレーになるまで様子を見る。

②プレーを停止し、役員を呼ぶ。GKなのでピッチ内で治療し、終わり次第、試合を再開する。

③プレーを停止し、役員と担架を呼びピッチ外に搬出する。交代要員のGKと交代し、試合を再開する。

回答 ③

●ライン際での競り合いで、競技者が相手競技者にピッチ外でタックルされ、倒された。(ファウルに対し懲戒罰はないものとする。)(第 12 条 P66)

①反則の起きたところから最も近い境界線上の地点から直接フリーキックで再開する。

②反則の起きたところから最も近い境界線上の地点から間接フリーキックで再開する。

③反則の起きたところから最も近い境界線上の地点からドロップボールで再開する。 回答 ①

●試合終了間際、競技者がシュートを放った直後、終了のブザーが鳴り、ブザーの後にゴールに入った。

①シュートはブザーの前に放っているため、ゴールを認め、試合を終了する。(第 7 条 P46)

②ゴールに入る前に終了のブザーが鳴っているため、ゴールは認められず、試合を終了する。

回答 ②

●競技者がキックインをする際に、ボールをライン上に置き、キックの軸足をピッチ内に完全に踏み込んだ状態でキックインを行った。(第 15 条 P80)

①軸足がピッチ内に踏み込んでいるため、相手チームのキックインで再開する。

②軸足がピッチ内に踏み込んでいるため、相手チームの間接フリーキックで再開する。

③キックインに問題はないので、そのままプレーを続行する。 回答 ③

●A チーム競技者が放ったシュートが B チーム競技者のブロックにより跳ね返った。跳ね返ったボールがシュートを放った競技者の手に偶発的に当たり、そのこぼれたボールを A チーム味方競技者がシュートし、ゴールを決めた。B チームは A チームのハンドを訴えている。(第 12 条 P57)

①手に当たったボールが得点の機会を作り出しているため反則とし、B チームの直接フリーキックで再開する。

②手に当たったのは偶発的であったので、反則ではなくゴールを認める。

回答 ①

●シュートをセーブする(弾く)際に、守備側 GK がゴールと衝突し、ゴールの位置が大きくずれた。弾いたこぼれ球を即座に攻撃側競技者がシュートしたが、ゴールの位置がずれていたためポストに当たりゴールインとはなかった。攻撃側競技者が放ったシュートは、ゴールが本来の位置にあればゴールが認められる弾道であった。(第 1 条 P18)

①守備側 GK は故意ではないので、シュートがゴールに入っていないのであれば認められない。

②ボールが本来あるべき位置のゴールポストの間を通過していると考えられるので、ゴールを認める。

回答 ②

●攻撃側競技者がドリブルで抜け出しゴールを守る相手 GK と 1 対 1 になる場面で、守備側競技者がドリブルしている競技者を後ろから倒した。(倒した地点はペナルティエリアの外で、すぐにゴールが狙える位置とする)(第 12 条 P63)

①GK と 1 対 1 は DOGS0 (決定的な得点機会) にあたるため守備側競技者を退場させ、フリーキックで再開する。

②GK と 1 対 1 は DOGS0 にあたるため守備側競技者を警告し、フリーキックで再開する。

③GK と 1 対 1 は DOGS0 にあたらないため反スポーツ的行為で守備側競技者を警告し、フリーキックで再開する。

回答 ③